

ともに育つ

仙台市内の一部の小中学校では、津波や地震で校舎が壊れ、小中学校の児童生徒が同じ校舎や体育館、武道館などで一緒に勉強する時期があった。

東六郷小も津波による大きな被害を受けて校舎が使えなくなり、六郷中の校舎内で学習や生活をするようになった。東六郷小の児童は、卒業後は六郷中に入学することになっていたが、一足先に中学生と過ごすようになって温かい交流が始まった。



被害を受けた東六郷小の校舎内

1 「フレー フレー 中学生！」

中総体激励会の日。六郷中の体育館ステージには、東六郷小の全校児童の姿があった。東六郷小で取り組んでいる和太鼓活動から「新・黒潮舞太鼓」を披露するためだ。その後も全員で選手たちにエールを送ってくれる。

小学生と中学生が同じ校舎で過ごすようになってから、毎年、中総体激励会には小学生がサプライズゲストとして登場し、応援をしてくれるのが恒例となっている。小学生からのかわいらしくも力強いエールに、中学生からお返しのエールを贈り、感謝の気持ちを表す。校舎内には小学生から贈られた手作りの横断幕が飾られ、常に生徒を見守り応援し続ける。



激励会での小学生からの応援エール

2 一緒に食べるとおいしいね

六郷中では秋になると学年ごとに、校庭で芋煮会を行うのが伝統行事となっている。中学生が計画し、買い物から調理までを行う芋煮会に、東六郷小の児童が招待され、おしゃべりをしながら一緒に芋煮を食べたり、食べ終わった後は一緒に校庭で遊んだりする。小学生がわくわくしながらそのできあがりを待った芋煮は、みんなの思いが隠し味となって、あちこちから「おいしい！」の聲が沸き上がる。

3 地域での交流

東六郷小フェスティバルは、東六郷小の児童が自分たちでお化け屋敷や遊びのお店を企画・準備し、お客さんと楽しむ児童会行事だ。フェスティバルの前には、小学生が自分たちで作ったポスターを持って、2階の中学生のところへ宣伝に回ってくる。

当日は東六郷小の卒業生だけでなく、楽しみにしていた中学生や六郷小の児童も多数来場し、会場はどこも大盛況だ。そして、普段少人数の中で生活する小学生は、来てくれたすべてのお客さんに楽しんでもらうために、汗だくになりながらお店を切り盛りする。

そして、フェスティバルの最後には、東六郷小の保護者OB「ひがろく親ねっと」の方々が腕によりをかけて作る「おやじカレー」が全員に振る舞われ、地域の子どもから大人まで、このフェスティバルを楽しむのだ。



たくさんのお客さんが来たフェスティバル

4 お互いを思いやる気持ちを自然に

小中学生が同じ校舎で過ごすことは、両方によい影響が生まれていった。中学生が考査期間や健康診断の時は、小学生はそと昇降口を出て校庭に遊びに行く。小学生に模範を示すためだろうか、中学生も廊下を静かに歩くようになった。

互いの行事がある時は、体育館や校庭を譲り合って使用する。小学校の授業時間は45分、中学校は50分と授業時間や休み時間にずれが生じていても、お互いの授業を邪魔しないように生活することが身に付いている。

どちらかが一方的に我慢することなく、自然な姿で思いやりを持って生活している。

ともに豊かに育つ子供たちへ

公益財団法人 近野教育振興会理事長 この けんじ 近野 兼史さん

近野さんは、未来を担う子供たちが、震災に負けずに、互いに思いやりを持って豊かに成長してほしいと願い、仙台市立の全ての学校に本を贈りました。この仙台版防災教育副読本も、そんな近野さんの思いに支えられ、皆さんに届いています。

